

2029

# リビングテーブル

Table for Living Room

AD32 白水 新奈  
指導教員 小西 均

## 1. 研究目的

大正から昭和初期までの生活様式や家具・道具は色や形、用途により懐かしさや落ち着きが感じられ、私には新鮮にも感じられる。その懐かしさや落ち着きを現代の生活にも活かすことはできないだろうか。そこで、過去の生活様式・和様式を取り入れ、現代の生活に合った家具を制作し落ち着きのある生活空間の演出を図りたいと思った。

## 2. 調査と分析

現代と過去の日本の生活様式と家具・道具の調査、比較した。

大正から昭和初期の商・農の民家の生活では土造建築が主流だったため、屋内に湿気がたまらないよう吹き抜けにし天井を高く設定してあり、土間や縁側があり開放的な空間である。また、腐食を防ぐための塗料により家具の色は濃い。床に座ってでの生活のため低い家具が多い。さらに用途によって専用の道具や家具があった。

### ◆過去の生活

- ・土、木造建築が主流
- ・木造の湿気を防ぐためと土間や縁側があったため開放的な空間
- ・ものを長く使う生活

### ◆現代の生活

- ・コンクリート造りにより密閉的な空間
- ・食や家具、道具、ライフスタイルが欧米化・西洋化になりつつある

## 3. コンセプトの立案

「多用途に長く使う」

食事や休息をするだけでなく収納性を高めることで多用途に長く使えるリビングテーブルとする。

## 4. デザイン展開

棚と引出に収納するものを設定するためにサイズから検討をした。そして、食事や休息、リビングで使うものを収納するサイズを考え制作を進めた。

テーブルの構成要素

### ◆引出 H50 に収納するもの

箸、スプーン、フォーク、ナイフや事務用品、リモコン等。

### ◆棚 H120, H240 に収納するもの

コップ、皿、ティーセット、急須、菓子、インスタント食品や本、雑誌、新聞等。

### ●試作-I (H570×W750×D750)

テーブルトップ:750×750 t21

棚・柱・軸・底板:t12

・色合いは良いが軸・柱・底板の板厚が薄いため頼りない印象になった。

・棚の高さが違うため統一感がない。

・引出の内部は塗装せずにそのまま使うことでより色合いが引き立った。



### ●試作-II (H623×W700×D700)

テーブルトップ:700×700 t21

棚・柱:t12 軸:t15 底板:t18

材料:針葉樹合板



## 5. 完成図



## 6. 結論

機能面として、引出に箸やスプーン、フォーク等が、棚にはコップや皿インスタント食品、本、雑誌等が収納することができた。印象としては深い色合いと低めで落ち着くや飾りたくなる棚、斜めに引出を出すのが珍しいと評価をいただいた。よって、現代の生活に合った家具を制作し落ち着きのある生活空間の演出はできた。

材料は板目を活かすため針葉樹合板を使ったが木材があげられることを予測できなかった。そのため組立が困難な部分もあった。そのようなことも考慮した構造を考えるべきであると製作をしてわかった。

## 7. 参考文献

- ・「日本の道具」発行所:読売新聞社
- ・「川崎市立日本民家園図録」発行所:(株)四国和